

地域性を生かした
モデル住宅の調査研究

連携する5大学が昨年度まとめた街並み提案を参考に、市内の地域性を生かした具体的な住宅モデルについて調査・研究を行いました。
今後、これらの提案を基にして、地域の特徴を生かした建築ガイドラインの策定に向けて研究をしていきます。
詳しい住宅モデルの提案内容は、市のホームページからご覧になれます。



第3回まちづくりフォーラムの様子

第4回まちづくり
フォーラム開催の
お知らせ！

■ 2月28日(日) 午後2時～
■ 八潮メッセ・アネックス
■ 講演「魅力あるまちづくり」
■ 筑波大学大学院准教授 渡和由さん、プロジェクト報告「八潮らしさと家づくり」
■ 市民によるまちづくり提案「八潮市商工会青年部による駅前南口公園の提案」、意見交換会を行う予定。(入場無料)

住宅モデルの一例 ※第3回まちづくりフォーラム(平成21年11月実施)で発表された内容です

■密集イエイエ

工業地域の住宅地に注目。調査の結果、工場跡地に、比較的小規模で同じ仕様で建てられた住宅が点在する。建物を全て同じ形にするのではなく、軒の高さを低く揃えたり、裏庭を作り家と家をつなぎ関係性を持たせていくことで、個性ある建物が並ぶ中にも調和がとれた街並みがつくられる。



■町工場と袋小路と家と

工場や住宅が混在する準工業地域の袋小路に注目。工場と住宅の共存を考え、住宅部分の防音対策として部屋に2重壁の設置や距離による音の減少効果をねらう。また、1階に縁側スペースを設け、工場とのコミュニケーションを図ることにより、新たなコミュニティ豊かな街並みがつくられる。



■ダブルデッキハウス

中川堤防沿いに提案する住宅。見通しの良さを利用し、2階部分に大きなデッキを配置する事で開放感が得られる。また、このデッキが連なることにより新たな街並みが誕生する。



住宅モデルから見えてきた、地域性を生かした住宅のスタイル

●家を単体で考えるのではなく、家同士の関係性を考えながら家を建てる。

家を建てる時には、前面道路に面する部分は、軒高を揃えるなど周辺の家と調和を意識し、関係性を持たせます。また、家の裏側は、閉鎖的なスペースとなっているので、裏庭を意識して作ることで、ほどよい家同士の距離と関係性を保ちながら、良好な住宅地を形成していきます。

●家の周辺の地域資源を取り入れていく。

家の周りがある「何か楽しいこと」、「気持ちよいこと」、「安心すること」に気づき、それらを取り入れていきます。例えば、川が近くに流れていれば、川との関係性を持たせるため大きな窓やデッキを設けたり、近くに工場がある場合は、閉鎖的にするのではなく、1階部分に縁側などのコミュニティスペースを設けるなどし、近隣との交流を図っていきます。